

「言葉は命」

言葉は人のために使う時、命輝かす

この通信では、みなさんに言葉を身につけ、良い使い手になってほしくて、折々の話題や私たち教師の願い、そしてみなさんのすぐれた作文や俳句などを紹介してきました。

1 年生が終わろうとしている今、もう一度、言葉の大切さに目を向けてほしいと思います。

さて、言葉の使い手として人には次の三つのタイプがいます。

- ① 人の悪口を言わず、良い点を見つめてはそれを言葉にする人
- ② 時には悪口を、でも褒め言葉も口にする人
- ③ 人を褒めることを知らず、いつも悪口や不平不満ばかり言っている人

自分はどのタイプでしょうか？ ①のタイプの人、人間的に優れていて一緒にいて心安らぐ人です。人望があり、生き方にゆとりのある人で、自然に人が集まります。ぜひこういう人になりたいですね。②の人、悪口を減らし、人の良い点や感謝の気持ちをたくさん言葉にすることに努めれば、①の人に近づけるし、良い人生を送れる可能性が十分にあります。

問題は③のタイプの人です。こういう人は自己中心的であり、いつも自分が正しいと思っています。自分のことは棚に挙げて、人のミスを言い立てたり他の人に知らせなくてもいいことまでしゃべったりします。自分を客観的に（外から冷静に）見られないわがままな子どもと同じ心の状態です。

みなさんは、この一年で言葉で失敗したことはなかったでしょうか？もしあるとすれば、それを教訓として同じ過ちをしないようにしましょう。口は災いのもとと昔からの言い伝えがあるとおりです。悪口や陰口は、その人の表情を醜くさせます。ここにこしながら悪口は言えませんからね。そして、言いつつ、言うたびに、その嫌な内容を誰が聞くかという、まず自分が聞きます。なおかつ、嫌な内容は自分の周辺に嫌なムードを漂わせます。・・・これでは人は寄り付かず、離れていくばかりです。

「言葉は命」・・・自分のために言葉を使うことは当たり前ですが、できるだけ人の良い点を見つめ、それを言葉にするようにしましょう。

自分が得することばかり考えることを「利己」と言います。一方、人が得するようにしてあげてくれることを「利他」と言います。言葉を「利他」として使えるようになると、言葉も人も命が輝きだします。

一つ言葉で 喧嘩して
一つ言葉で 仲直り
一つ言葉で お辞儀して
一つ言葉で 笑いあい
一つ言葉で 泣かされる
一つ言葉は それぞれに
ひとつの心をもっている

秀作作文の紹介)))

「私が必ずしていること」

一年四組 K

私が必ずしていることは、英語の単語練習です。なぜかと言うと、私は単語を覚えても意味がわからなくなってしまうことがあるからです。だから私はほとんど毎日単語練習をしています。だから単語テストの時は、満点か九点です。これは、毎日の努力のおかげだと思っています。これからも単語練習をがんばります。

「私が必ずしていること」

一年六組 O

私が必ずしていることは、朝起きたら「今日もきつとすばらしい一日になる」と、20回以上心の中で繰り返すことです。これは、『君たちは偉大だ』の本の中に書かれていて、いいなと思って毎朝やっています。今日もすばらしい一日なると思っています。本当にそうなる日があるので、私はこれをおぼあちゃんになっても続けていきたいと思えます。

秀句の広場

「私が必ずしていること」

一年一組 T

僕が必ずしていることは早起きです。僕は、夜は十時ごろまでに寝て、朝早い時は五時くらいに起きます。そしてその時間を使って、その日の目標や課題を決めます。こうすると、その日をとてちもちよく過ごせるのです。これからも、僕はこれをずっと続けていこうと思えます。